

- 1 開催日：令和5年2月27日（月）16時05分～16時25分
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

### 議題1 県庁DXステップアップ・チャレンジ（案）について

#### ●森デジタル社会推進局デジタル改革推進課長（資料1に基づいて説明）

本取組では、県庁DX推進に向けたマインドセットとして、DX人材育成方針の職員のめざす姿をベースに「1. デジタルを学んでいこう！」「2. 生産性の向上を目指そう！」「3. 飽くなき挑戦を続けよう！」の3点を取りまとめています。

本取組は、「みえ元気プラン」の分野別計画である「みえのデジタル社会の形成に向けた戦略推進計画」のDXの取組の一つとして位置付けられています。また、「県庁DXの推進」の中の組織のDX（E、F、G）として取り組んでいくものです。

DX推進基盤で変わる全庁ツールの中で、ビジネスチャットとWeb会議の活用が非常に重要になります。そこで、活用を促進するためのプロジェクトとして、コミュニケーション活性化プロジェクト、会議効率化プロジェクトを令和5年5月下旬から、残りの3つは夏ごろから開始する予定です。

コミュニケーション活性化プロジェクトは、ビジネスチャットであるslackをしっかりと活用して、情報共有の効率化と意思決定の迅速化を目指します。操作研修だけでなく効果的な使い方の提案などを行うプロジェクトとして進め、一年後には欠かせないツールとなるように取り組んでいきます。

会議効率化プロジェクトでは、モバイル型パソコンとWeb会議システム等を活用して、時間や空間の有効活用と、資料の準備や修正の効率化を目指します。情報共有だけの会議はslackで行い、会議資料はペーパーレスで、修正はその場で画面を見て行うなどの取り組みが県庁中でできるようにしていきます。

管理職の皆さんには、「自らやってみる」、「安心してやれる雰囲気を作る」、「職員のやってみることを応援する」の3点をお願いしたいと思っています。

このプロジェクト全体のKPIは元気プランに記載のものです。これに加えて、各プロジェクトを運営していくうえでの、モニタリング指標を設定します。モニタリング指標は、ダッシュボードとしてイントラページに公開し、課題等を常に把握しながら取り組みます。

令和5年度のスローガンは、「やってみよう、慣れていこう」です。アナログやリアルで本当にやりたいことができるように、あったかいDXを進めていきたいと考えています。

## 議題2 データ活用方針（案）について

### ●森デジタル社会推進局デジタル改革推進課長（資料2に基づいて説明）

D Xの鍵は、データとデジタル技術の活用であると記載しています。

国では、包括的データ戦略にて、データは知恵・価値・競争力の源泉で社会課題を解決する切り札と位置付けられています。

現状の課題は、システムが個別に最適化されて整備されているため、データを横連携しながら有効活用するということが出来ておらず、サイロ化への対応が求められています。また、庁内で保有するデータの把握も求められています。このような課題を解決してデータを活用で組織に変わっていく必要があります。

本方針は、みえデジプランの個別方針として位置付けていて、対象期間は、令和5年度から令和9年度としています。基本的な考え方として「データドリブンな組織の実現に向けたデータマネジメントの実践」を掲げています。

また、「ためる」、「つなぐ」、「つくる」の3つの方針に基づいて、推進環境の整備、オープンデータの推進、課題テーマへの対応の3つに取り組みます。

推進環境の整備としては、データ活用基盤の整備に今年度取り組んでいます。

オープンデータの推進としては、横断的な検索やAPIなどへ対応した新しいオープンデータライブラリに刷新していきます。

課題テーマへの対応については、令和5年度は、「潜在的な移住ニーズの把握に向けた観光データ等の活用」、「豚熱浸潤状況調査データの活用」の2つに取り組みます。加えて、防災に関すること、公共インフラに関すること、観光に関すること、この3つについてデータ活用に向けた課題や今後の方向性について、研究検討を進めていきたいと考えています。

### ●三宅デジタル社会推進局長

全庁を挙げて取り組んでいきたいので、よろしくをお願いします。

何かご意見・ご質問があればお願いします。

### ☆田中CDO

県庁DXステップアップ・チャレンジに関して、三重県では全国の自治体で初めてslackを全職員が利用することになります。「あったかいDX」に基づく、職員一人ひとりの自己実現を図るツールです。キーワードはオープン・アンド・コラボレーションです。コミュニケーションがオープンであれば情報取得量も増えて、職位を問わずに目線があった会話ができるようになります。また、民間や各種団体とのコラボレーションも容易になって来ます。このロールモデルであるデジタル社会推進局の職員が、ワークスタイル改革の伴走支援

をしていきます。また、対面等の会議からチャットベースのコミュニケーションに大きく転換するわけですので、戸惑うこともあると思いますが、部局長には、職員をあたたく見守っていただくようお願いいたします。

データ活用方針については、一步一步着実に、データ活用を県庁に根付かせるように、ご協力をお願いいたします。

●三宅デジタル社会推進局長

最後に知事から一言お願いいたします。

☆一見知事

1年半前に着任した時にDXについては、霞が関に比べても、ずいぶん遅れていると感じたが、CDOの活躍もあり、みえデジプランを策定し、slackも入れるということで、行政のDXも進んできていると思います。後は、私も含め、管理職がこれについていくことが必要であり、皆さん勉強していただきたい。

行政のDXとして、各市町では、「書かない窓口」というのもできてくるので、必要なアドバイスなどもしていかないといけない。そのような心構えで対応していただきたい。

●三宅デジタル社会推進局長

議題の1、2ともに了承されたということで、どんどん進めていただきたい。